

次期総長予定者の決定について

昨日、東京大学総長選考・監察会議は、藤垣裕子氏を次期総長予定者として決定いたしました。

今回の総長選考においては、総長選考・監察会議が主体的に選考を行うとともに、選考プロセスの透明性と公正性の確保に努めながら協議を進めてまいりました。その結果、昨日開催された東京大学総長選考・監察会議におきまして、選考開始の公示の際に公表した「求められる総長像」に照らし、各候補者の所信、委員による候補者への面接調査、学内構成員の意向投票の結果も含め、総合的に考慮し、慎重かつ丁寧な協議を行い、藤垣氏を次期総長予定者として適任であると判断しました。

選考理由としては、

「藤垣氏は、理事・副学長の経験を通じて、本学が学术界の象徴、シンボルであることを強く意識し、専門分野である科学技術を社会に伝えるコミュニケーション力を活かして、学術への信頼を回復する強い意志と能力を備えていると判断した。激変する社会環境の諸問題を解決する鍵は新たな価値創造にある。そのためには先進化する技術の活用の在り方に多様な知を活かして、チームワークで事前にリスクに対応し、学術への信頼を高め、大学という組織を発展させることが希求される。同氏は、文理融合、学外・学内のコミュニケーションの充実を通じた多様な知の発展に向かって、幅広い国際的な経験をもとに、より開かれた大学に向けた変革を実現する十分な能力を持っている。壁を所与と考えない力、障壁を生む分断を乗り越える力を本学が持つために、同氏の知見と能力を評価し、総長選考・監察会議は同氏を次期総長予定者として選考した。」

以上が、藤垣氏を総長予定者として選考した理由です。

結果として、意向投票でもっとも多くのご支持を得られた候補者が、総長予定者として選出されなかったことになったわけですが、総長選考・監察会議としては、東京大学の6年間の託すに値する能力と資質をもった方を、様々な資料や面接などに基づき、丁寧かつ真剣な協議を繰り返した結果として、責任をもって選んでおり、学内構成員の方々にも理解を得られる結果だと思っております。

総長選考・監察会議は、藤垣氏の下、東京大学が更なる発展を遂げていくものと期待しております。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年9月29日

東京大学総長選考・監察会議議長

国谷裕子